

スーパーマーケット景気動向調査

2024年5月調査結果（4月実績）
（2024年5月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

5月調査（4月実績）結果概況

景況感、経営動向とも大きく下落

4月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から-8.2の45.3となり、3か月にぶりに、好不調判断の分かれ目である50を下回った。見通し判断は前月から-4.8の44.2と悪化をみせた。

経営動向調査では、売上高DI、収益DI共に前月から大きく下落した。生鮮品仕入原価DIと食品仕入原価DIは引き続き高水準を維持しているなか、前年に比べ週末が1回少ない影響を受け、客単価DIは大幅に下落、来客数DIがマイナス圏で推移したことが影響している。

カテゴリー動向調査では、多くのカテゴリーDIが前月から大幅に低下し、相場が高値傾向にある青果DIのみが二桁プラスに踏みとどまった。円安などの影響で輸入肉も高騰した畜産DIの下落幅が大きく、日配品や一般食品DIでは、気温が上昇し飲料などに恩恵もみられたものの、週末が1回少ない曜日巡りによる、客単価の下落の影響を受けた。（最終ページに詳細掲載）

景況感調査では、現状判断、見通し判断共に前月から大きく悪化した。（長期傾向はP11参照）

前月は土日が前年より2日多い曜日巡りの追い風があった一方で、4月は週末が一回少なく、前月比では大きく鈍化する結果となった。前年より高い気温による影響や、花見時期がずれ込むなどの追い風もあった一方で、生鮮の相場高や再値上げ、円安やエネルギーコスト上昇への消費者心理減退に懸念の声が高まっている。

株高による資産効果も一服するなかで、足元の円安傾向は、国内に引き続き物価上昇圧力が高止まりすることを示唆しており、所得環境の改善が伴わなければ消費意欲の低迷につながる可能性がある。これまで堅調に推移してきた販売水準を、価格訴求によって維持する動きも一層目立つようになっている。一方で価格転嫁を要求され、今後もインフレ基調が続くなかで、どのような販売戦略を取るか、難しい判断の局面が続くだろう。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：45.3 (-8.2)
前月：53.5

消費者購買意欲DI
当月：44.4 (-6.5)
前月：50.9

周辺地域 競合状況DI
当月：44.7 (-1.2)
前月：45.9

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：47.0 (-3.7)
前月：50.7

見通し判断

景気判断DI
当月：44.2 (-4.8)
前月：49.0

消費者購買意欲DI
当月：43.8 (-3.8)
前月：47.6

周辺地域 競合状況DI
当月：43.4 (-1.9)
前月：45.3

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：46.6 (-2.4)
前月：49.0

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：1.5 (-13.4)
前月：14.9

客単価DI
当月：9.0 (-9.7)
前月：18.7

来客数DI
当月：-4.7 (-1.6)
前月：-3.1

収益DI
当月：-1.4 (-15.6)
前月：14.2

販売価格DI
当月：21.6 (-0.2)
前月：21.8

生鮮品仕入原価DI
当月：19.3 (-1.7)
前月：21.0

食品仕入原価DI
当月：20.7 (-0.9)
前月：21.6

カテゴリー動向

青果DI
当月：10.4 (-6.3)
前月：16.7

水産DI
当月：0.4 (-10.8)
前月：11.2

畜産DI
当月：-15.5 (-23.0)
前月：7.5

惣菜DI
当月：6.5 (-2.6)
前月：9.1

日配DI
当月：-4.1 (-18.4)
前月：14.3

一般食品DI
当月：1.2 (-14.2)
前月：15.4

非食品DI
当月：-3.1 (-6.4)
前月：3.3

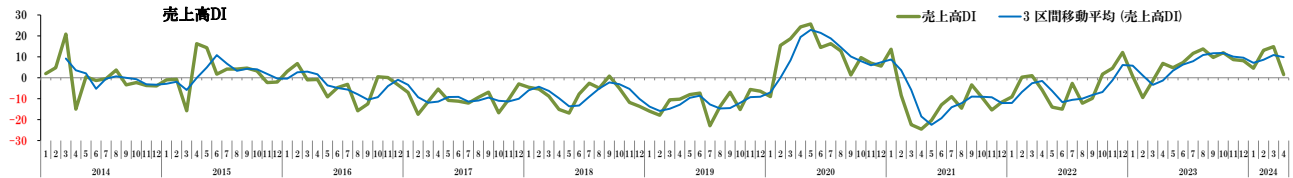
※DI 値は前年同月との比較 / () 内は前月 DI からの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高 DI

前月から大幅に下落、わずかにプラス圏を維持

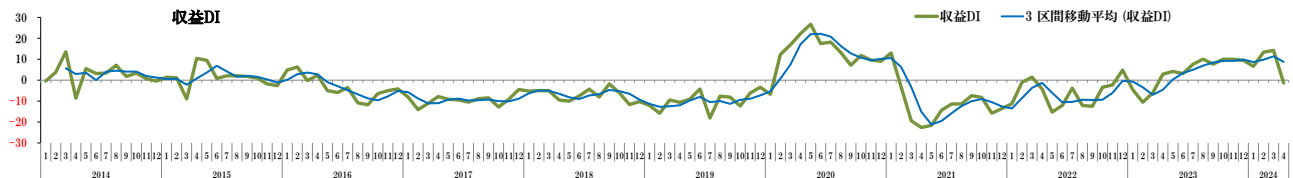
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	2.3	7.4	31.3	46.6	12.5	14.9
売上高 (当月)	3.8	29.0	30.5	30.5	6.1	1.5



2. 収益 DI

前月から大幅に下落、マイナス圏へ

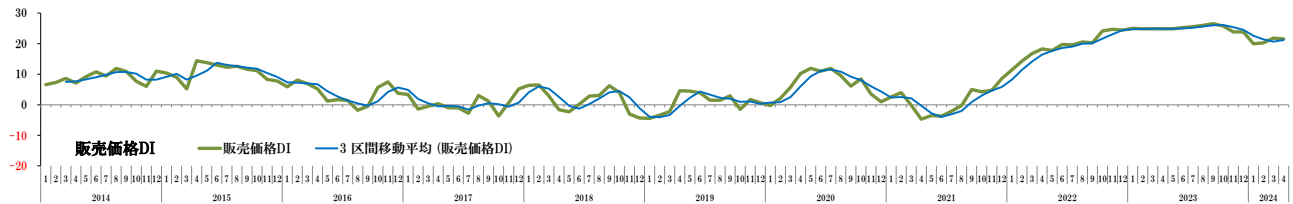
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	1.2	11.6	33.1	37.2	16.9	14.2
収益 (当月)	7.0	30.2	31.0	24.8	7.0	-1.4



3. 販売価格 DI

前月から横ばい、高水準での推移が継続

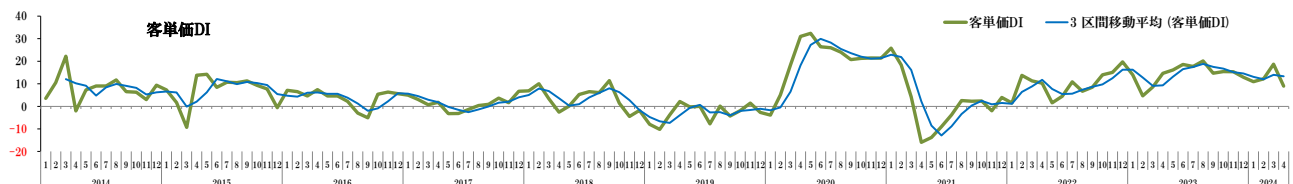
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	1.1	19.5	70.1	9.2	21.8
販売価格 (当月)	0.0	0.0	22.9	67.9	9.2	21.6



4. 客単価 DI

前月から下落も、プラス圏で推移

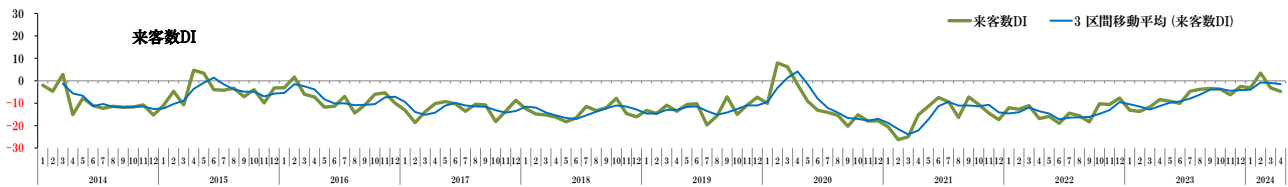
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.0	5.1	22.9	64.0	8.0	18.7
客単価 (当月)	0.8	16.0	33.6	45.8	3.8	9.0



5. 来客数 DI

前月から小幅に下降、マイナス圏で推移

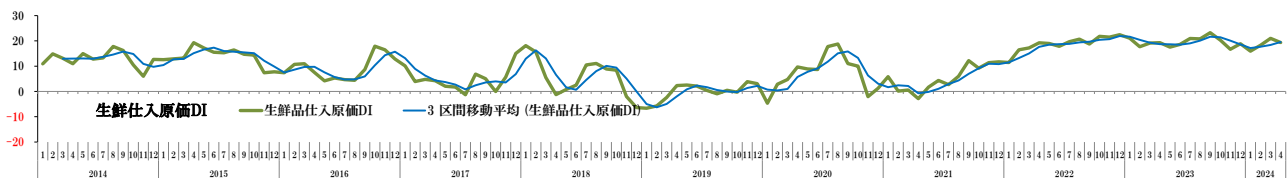
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	4.0	34.9	33.7	24.6	2.9	-3.1
来客数 (当月)	6.8	33.3	35.6	20.5	3.8	-4.7



6. 生鮮仕入原価 DI

前月から小幅に下落も、二桁プラス水準続く

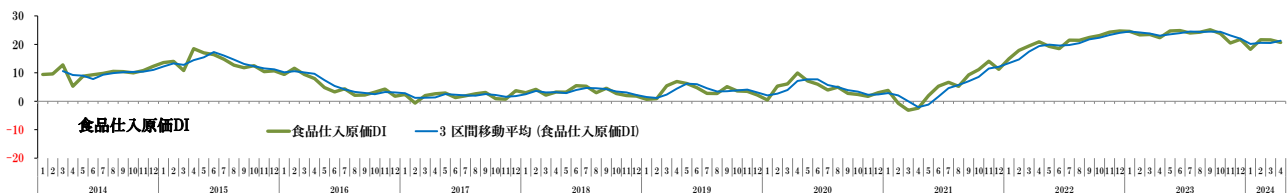
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.6	4.7	18.9	61.5	14.2	21.0
生鮮仕入原価 (当月)	0.0	3.9	25.0	60.9	10.2	19.3



7. 食品仕入原価 DI

前月からほぼ横ばい、36 か月連続プラス圏で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	1.2	4.8	15.0	64.7	14.4	21.6
食品仕入原価 (当月)	0.0	1.6	26.0	60.6	11.8	20.7

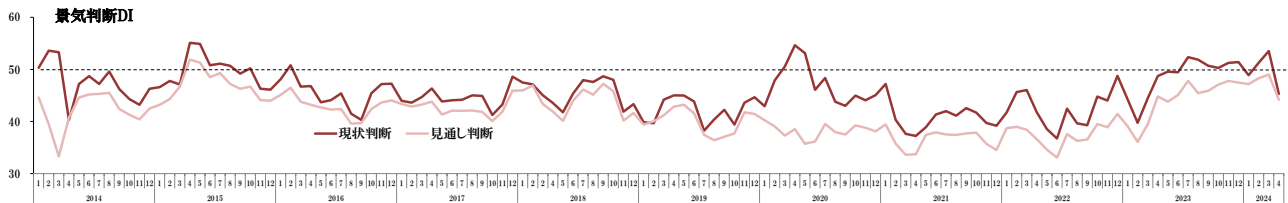


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断、見通し判断共に急落

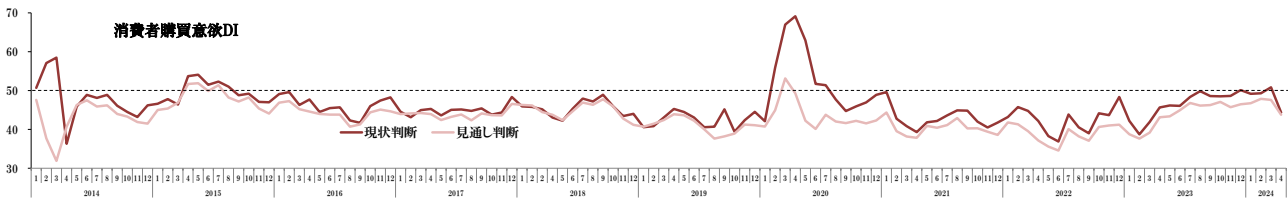
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	0.6	11.3	63.8	22.0	2.3	53.5
【現状】景況判断 (当月)	1.5	26.3	62.4	9.0	0.8	45.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	1.1	16.4	69.5	11.3	1.7	49.0
【見通し】景況判断 (当月)	0.8	30.8	60.2	7.5	0.8	44.2



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に急落

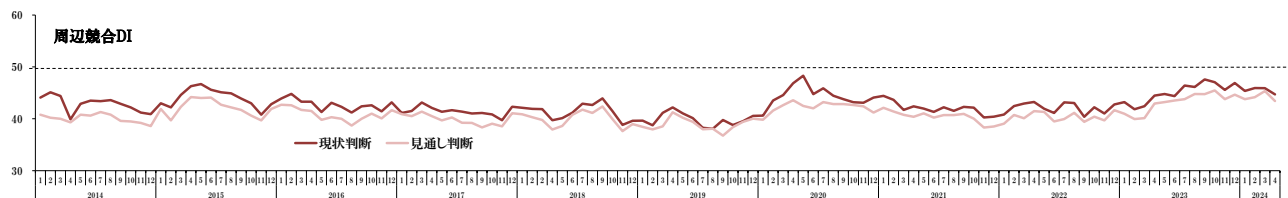
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.1	13.6	67.0	17.0	1.1	50.9
【現状】購買意欲 (当月)	1.5	29.3	60.2	8.3	0.8	44.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	1.1	18.1	70.6	9.6	0.6	47.6
【見通し】購買意欲 (当月)	0.8	30.8	61.7	6.0	0.8	43.8



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に小幅に悪化

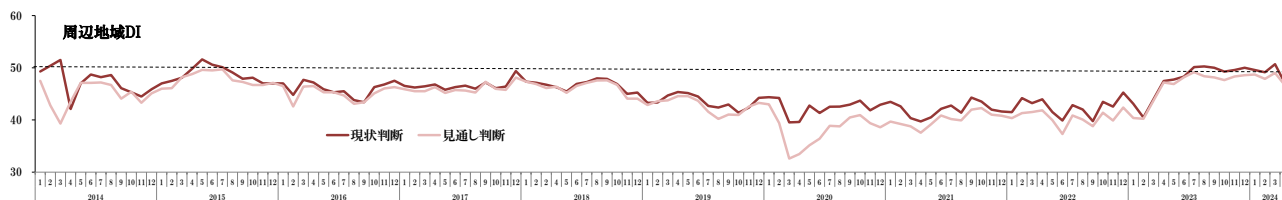
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	2.8	18.1	72.9	5.1	1.1	45.9
【現状】競合状況 (当月)	3.8	18.9	72.0	5.3	0.0	44.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	3.4	18.1	72.9	5.1	0.6	45.3
【見通し】競合状況 (当月)	4.5	21.8	69.2	4.5	0.0	43.4



4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

現状判断、見通し判断共に悪化

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.0	7.3	83.6	7.9	1.1	50.7
【現状】地域景気 (当月)	0.8	17.4	75.8	5.3	0.8	47.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.0	12.4	79.7	7.3	0.6	49.0
【見通し】地域景気 (当月)	0.8	18.2	75.8	4.5	0.8	46.6

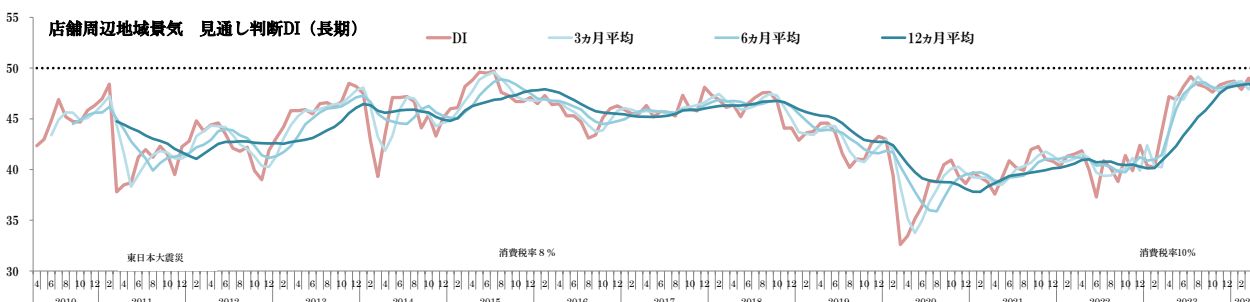
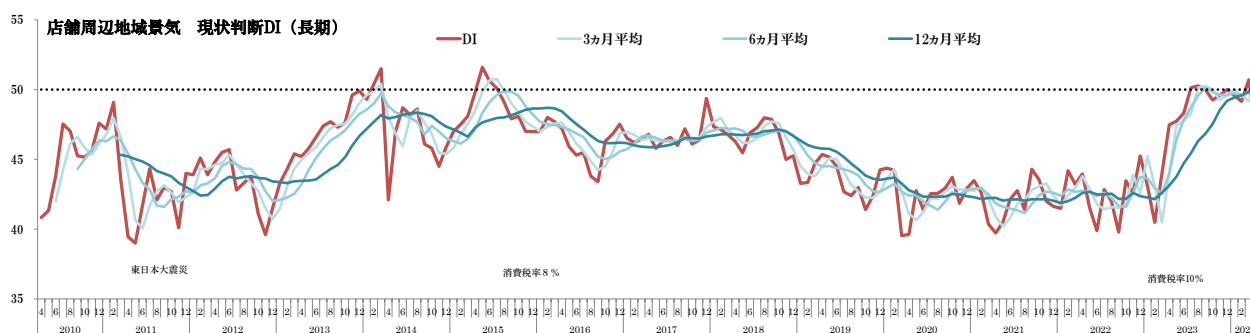


・中核店舗周辺地域景気判断 DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断 DI は、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断 DI が 51.5 を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断 DI は 51.6 にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断 DI は 43.4 まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断 DI は 42.3 まで低下した。

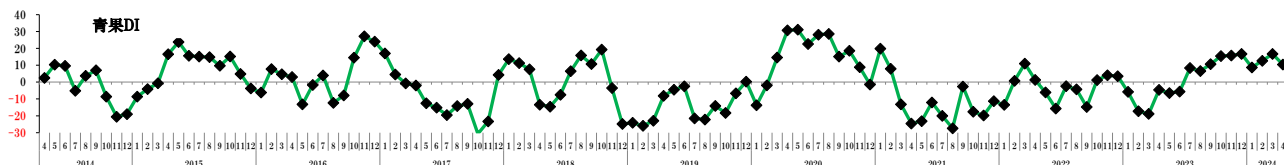
20年2月に大幅に悪化したのが、その後持ち直しの動きが続いた。21年以降は、感染状況により上下に振られる不安定な動きが続いた。22年4月以降悪化が続き、6月にはすべての移動平均線が下向きへと変化した。感染が再拡大した7月以降には一旦大幅な改善をみせた。その後23年3月以降は改善が続き、7月には判断の分かれ目である50を突破、その後も高水準を維持した。24年5月に一転して大きく悪化した。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：10.4（好調）

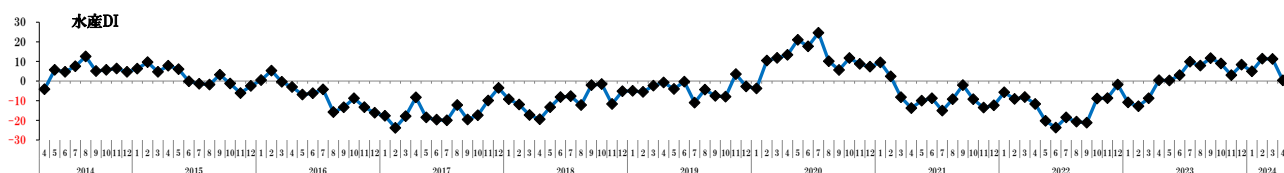
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	1.8	12.4	24.3	40.2	21.3	16.7
青果（当月）	1.6	18.1	29.1	39.4	11.8	10.4



前月から引き続き相場は高値傾向で推移。前月同様、玉ねぎなどの土物類は前年相場安からの反動で単価増も加わり、売上高としては好調となった。特にキャベツや白菜、大根は相場高で、単価を押し上げた一方で、数量減で苦心した店舗も。高めの気温の影響で、薬味関連野菜の動きがよかった。国産果実は全般的に相場高傾向が続くなか、好不調の判断がわかれているが、カットフルーツの動きは良いとのコメントが多かった。

2. 水産DI：0.4（やや好調）

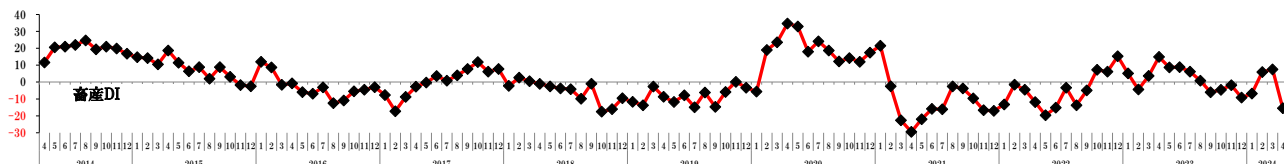
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	3.6	15.6	28.7	36.5	15.6	11.2
水産（当月）	6.4	28.0	29.6	29.6	6.4	0.4



全般的に相場高傾向がみられるなかで、旬のホタルイカをはじめ、相場が落ち着いた魚種は好調に推移した。引き続きマグロを中心に、刺身類が販売しやすい価格で好調に推移した。一方で、エビやカニなどの冷凍品や塩干類は伸び悩んだ。高値で推移したうなぎ類、カツオは不調とする店舗が多い。気温の上昇により、うなぎが好調とのコメントもみられた。

3. 畜産DI：-15.5（不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	4.1	19.5	30.2	34.3	11.8	7.5
畜産（当月）	14.3	48.4	24.6	10.3	2.4	-15.5

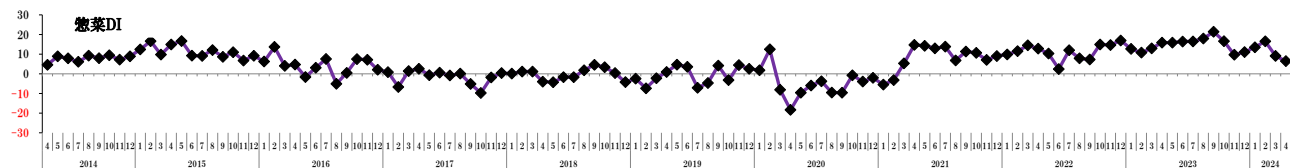


前年に比べ週末が少なく、降水量も多かった影響に加え、牛肉・豚肉の相場が高止まりし、価格が安定して値ごろ感のある鶏肉への需要シフトが顕著となり、単価が下落し不調となった。為替相場の影響で輸入牛や輸入豚の価格が高騰しており、国産肉の動きが堅調となった。

牛肉は、ステーキや焼肉商材なども不調、豚肉は小間切れやひき肉など、値ごろな商材以外の動きは鈍かった、鶏肉は最も相場が安定しており好調に推移。加工肉は値上げの影響で不振とする店舗が多い。

4. 惣菜DI：6.5（やや好調）

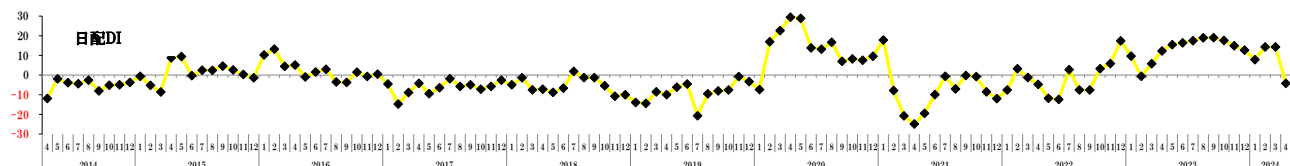
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	4.2	14.4	34.1	35.3	12.0	9.1
惣菜（当月）	2.4	15.7	40.9	35.4	5.5	6.5



開花の遅れで花見需要が4月前半にずれ込んだ恩恵を受けた一方で、雨の影響を受けた地域もみられた。行楽需要が高まった地域を中心に焼鳥など、おつまみ関連は好調に推移。天ぷら、コロッケなどの揚げ物類、単価が上昇している米飯類、おかず類が好調を牽引している。高い気温の影響を受けサラダ類は好調。寿司関連は伸び悩んだ店舗が多い、人手不足により製造や開発などの対応が間に合わないとのコメントもみられた。

5. 日配DI：-4.1（やや不調）

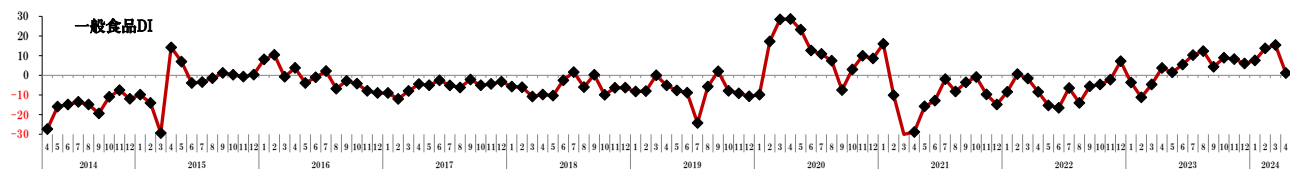
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	1.8	10.1	32.0	41.4	14.8	14.3
日配（当月）	7.1	29.9	39.4	19.7	3.9	-4.1



週末が1回少ない影響を受けているが、高い気温の影響で、飲料やアイス、涼味麺などが好調に推移。価格改定のあった牛乳やチーズなど乳製品、パン類も引き続き堅調に推移した。鶏卵は前年に比べ相場が落ち着き、売上は伸び悩んだ。冷凍食品では青果相場高により冷凍野菜が好調。納豆や漬物など和日配は動きが悪いとのコメントが多い。洋日配ではメーカーのシステムトラブルによる欠品の影響を受けたとの声が多かった。

6. 一般食品：1.2（やや好調）

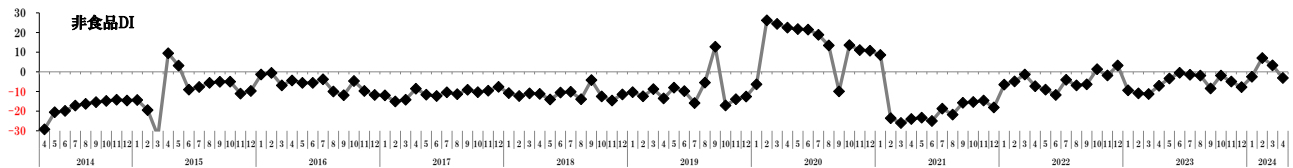
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	1.8	12.4	27.2	39.6	18.9	15.4
一般食品（当月）	5.4	21.7	41.1	26.4	5.4	1.2



調味料など再値上げの影響で販売価格上昇による単価増が続くなか、点数が伸び悩んでいる店舗もみられるなど好不調の判断が分かれた。気温上昇に伴い、飲料類の動きがよく、酒類や菓子類は、花見時期のずれ込みにより恩恵を受けた店舗もみられた。コーヒー類は単価上昇の恩恵が一巡し販売額は減少。米類は単価上昇も節約志向の受け皿として好調。周辺競合店との価格競争の厳しさを指摘するコメントが多くみられた。

7. 非食品 DI：-3.1（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	6.7	21.2	35.8	24.8	11.5	3.3
非食品（当月）	9.9	24.8	36.4	25.6	3.3	-3.1



単価が上昇したトイレトペーパー・キッチンペーパーなど紙製品が引き続き好調に推移した。ラップやホイルなども単価上昇で好調とのコメントが多い。一方でマスクやハンドソープ、除菌関連など衛生用品は需要低下傾向が続く。気温の上昇により虫ケア用品や防虫剤の動きがよかった。ペット関連は不振とのコメントが多い。競合店との価格競争の厳しさを指摘するコメントが多くみられた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2024年5月調査（4月実績）キーワード TOP3

1. 前年より週末が一回少ない
2. 気温上昇、花見時期の天候
3. 価格上昇による影響

（参考）2023年5月調査（4月実績）キーワード TOP3

1. 価格上昇による単価上昇
2. 食品需要回復による買上点数の抑制
3. 日曜日が一日多い

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

4月実績速報版 133社
 3月実績確報版 177社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp